2020-2021 年度 LibrarianMap 活動報告書

LibrarianMap
国立大学図書館協会東京地区

JANUL

2022 年 3 月
2021 年度国立大学図書館協会東京地区協会助成事業
LibrarianMap 企画・運営メンバー

目次

0.　はじめに　2
1.　統計評価　2
1.1.　アクセス数　2
1.2.　登録者数　4
1.3.　まとめ　5
2.　イベント・連携企画の実施　6
2.1.　新型コロナウイルス感染症対応に関する情報共有　6
2.2.　2020 年度フレッシュパーソンセミナー　6
2.3.　2020 年度 LibrarianMap 関連イベント『他館の職員とつながろう！～LibrarianMap で「名刺交換で終わらない関係」を～』　7
2.4.　2021 年度 LibrarianMap 関連イベント『突撃！隣の図書館員～LibrarianMap でスキルアップを考えよう～』　8
3.　アンケートの実施　9
3.1.　概要　9
3.2.　集計結果　9
3.3.　分析とまとめ　9
4.　事業継続性　11
4.1.　運営体制　11
4.2.　維持管理業務　11
4.2.1.　サーバ管理　11
4.2.2.　MediaWiki 管理　11
4.3.　費用負担　12
4.4.　まとめと考察　13
5.　LibrarianMap のこれから　14

別紙 1　2021 年度東京地区協会地区助成事業 LibrarianMap 関係者一覧
別紙 2　LibrarianMap 登録のご案内（フライヤー）
別紙 3　第 23 回図書館総合展出展ポスター
別紙 4　2021 年度 LibrarianMap 登録者向けアンケート集計結果
別紙 5　2021 年度 LibrarianMap 技術的検討報告書
別紙 6　LibrarianMap RoadMap 2023

0. はじめに

LibrarianMap[1]は、国立大学図書館協会（以下、「国大図協」という。）東京地区協会地区助成事業において、2018 年度に企画・構築されたウェブサービスである。2018 年 11 月の β 版公開を経て、2019 年 3 月にプロトタイプ版としての本運用に移行した。2020 年 3 月には、統計、アンケート、業務継続性の 3 つの観点から 1 年間の事業評価を行い、「令和元年度国立大学図書館協会東京地区助成事業 LibrarianMap（プロトタイプ版）評価報告書[2]」がまとめられた。この報告書で示されたロードマップに基づき、2020 年 4 月からは正式運用を開始した。

本報告書では、正式運用を開始した 2020 年度から 2021 年度にかけての 2 年間の活動についてまとめた。令和元年度評価報告書と同様に、統計、アンケート、事業継続性の 3 つの観点に加えて、広報活動の一環として行った関連イベントについても記載した。

最後に、企画・構築から数えて 4 年間の活動を通して、LibrarianMap が現状抱える課題と、今後の事業継続に向けた展望についてまとめた。

1. 統計評価

本項では、LibrarianMap サーバへのアクセスログに基づく評価を行う。

扱うデータは、令和元年度評価報告書から継続して、2020 年 3 月から 2022 年 2 月までの 24 ヶ月間を対象とする。

1.1. アクセス数

訪問者数、訪問回数、ページビュー数はそれぞれ一定の数値を保っており、平均訪問回数も大体 3 回／月で安定している。2020 年 4 月より正式運用を開始してからおよそ 2 年経った現在も、LibrarianMap が一定の水準で稼働していることが分かる。

[1] 閲覧にはアクセス ID とパスワードが必要。閲覧およびデータ登録は、国大図協会員館職員等に限る。

[2] https://www.janul.jp/ja/regional/promotion_tokyo

表１　訪問者数・ページビュー数の月別推移

	訪問者数 ※1	訪問回数 ※2	平均訪問回数 (訪問回数/訪問者数)	ページビュー数 ※3	1訪問あたりページビュー数 (ページビュー数/訪問回数)
2020/3	47	205	4	1428	6
2020/4	37	136	3	1396	10
2020/5	59	193	3	1599	8
2020/6	72	198	2	2229	11
2020/7	32	122	3	1098	9
2020/8	21	96	4	788	8
2020/9	31	168	5	1399	8
2020/10	71	319	4	5073	15
2020/11	204	506	2	8778	17
2020/12	100	393	3	4332	11
2021/1	74	290	3	2757	9
2021/2	92	269	2	2752	10
2021/3	137	508	3	4955	9
2021/4	78	298	3	1184	6
2021/5	48	182	3	1184	6
2021/6	29	185	6	1203	6
2021/7	41	163	4	1340	7
2021/8	60	200	3	1430	7
2021/9	37	142	3	1662	11
2021/10	42	207	4	1624	7
2021/11	85	301	3	4247	14
2021/12	183	455	2	6271	13
2022/1	53	230	4	3056	13
2022/2	63	242	3	2546	10

※1　ウェブサイトへアクセスした訪問者の数。同一 IP をカウントしないユニークなアクセス数。
※2　ウェブサイトへアクセスされた回数。同一 IP の場合、60 分以内のアクセスはカウントしない。
※3　ウェブサイトで HTML 文書が表示された回数。同一 IP でもカウントする。

2020 年 11 月と 12 月、2021 年 3 月、2021 年 12 月に訪問者数の増加がみられる要因としては、LibrarianMap 関連イベントの開催および企画・運営メンバーからの登録者にむけてのメールを通じた働きかけが考えられる。

2020 年度・2021 年度 LibrarianMap イベント一覧と訪問者数・ページビュー数の月別推移を比較すると、イベント実施時期前後で訪問者数が顕著に伸びていることが分かる。

表 2　2020・2021 年度 LibrarianMap イベント一覧

日付	イベント名	内容
2020 年 11 月 12 日	国立大学図書館協会東京地区協会・関東甲信越地区協会合同フレッシュパーソンセミナー	セミナー参加（講義間のブレイクセッション）
2020 年 11 月 1 日-2020 年 11 月 30 日	第 22 回図書館総合展ポスターセッション出展	イベント参加
2021 年 3 月 16 日	他館の職員とつながろう！～LibrarianMap で「名刺交換で終わらない関係」を～	イベント実施
2021 年 11 月 24 日	突撃！隣の図書館員～LibrarianMap でスキルアップを考えよう～	イベント実施（図書館総合展内）
2021 年 11 月 1 日-2021 年 11 月 30 日	第 23 回図書館総合展ポスターセッション出展	イベント参加

1.2.　登録者数

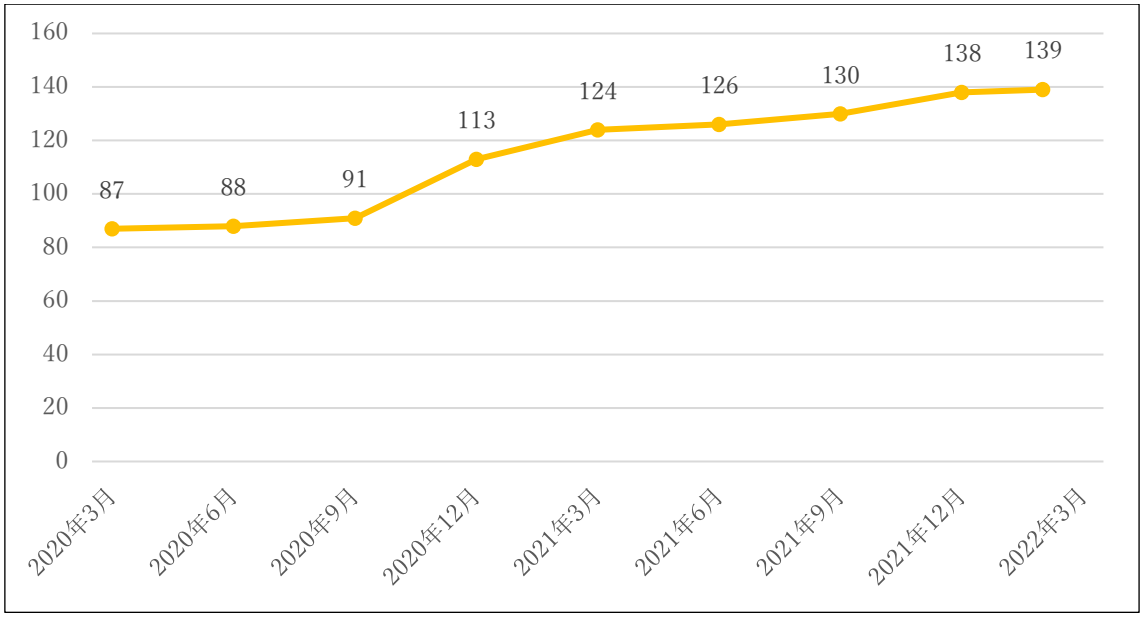


図 1　LibrarianMap 登録者数推移

2020 年 3 月～2022 年 2 月にかけて、87 名→139 名（増加率約 60%）と、順調に登録者数を伸ばしている。2022 年 2 月 28 日時点での登録者の所属内訳は次の通り。

表 3　LibrarianMap 登録者所属内訳

所属	人数
東京地区協会会員館職員	85 名
他地区協会会員館職員	45 名
その他(他機関への出向・異動者や OB・OG を含む)	9 名

2021 年度事業計画時点での目標値（登録者全体数：150 名、他地区：60 名）には及ばなかったが、2020 年 3 月以降の登録者 52 名のうち 21 名が他地区協会会員館職員であることから、他地区に対しても広報／普及活動による一定のリーチは達成できていると思われる。

1.3.　まとめ

正式運用開始からおよそ 2 年が経過した 2022 年 2 月時点で、LibrarianMap は安定したアクセスを得ていることがわかる。

LibrarianMap 関連イベントや運営からのメールを通じた働きかけはアクセス数に顕著につながっており、訪問者数・登録者数の増加に対してもある程度有効と考えられるが、以前よりも増加率が低くなっていることは否めない。一方で、他地区の登録者数が徐々に伸びており、LibrarianMap の登録対象を全国へ拡大したことによる知名度の高まりが反映されている。LibrarianMap の登録者数・アクセス数増加のためには、今後どのように他地区へ働きかけていくかが重要になるだろう。

2. イベント・連携企画の実施

2.1. 新型コロナウイルス感染症対応に関する情報共有

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大に伴い、各館での対応に関する情報を共有するための特設ページを LibrarianMap 上に開設した。概要は次のとおり。

期間	2020 年 5 月 11 日（月）～10 月 20 日（火）
対象	LibrarianMap 登録者
形式	1　Google ドキュメントへの匿名による書き込み 2　関連カテゴリの作成、および「議論」ページへの書き込み
その他	特設ページ：https://ex.librarianmap.org/wiki/COVID-19 ※ 要認証 ※ Google ドキュメントは閲覧のみ可能

Google ドキュメント上では、休館対応、郵送貸出のサービスといった閲覧業務関連のトピックから、オンラインミーティング、在宅勤務中の自己研鑽教材の紹介といった勤務形態の変化に関する内容まで、幅広く情報共有がなされた。

また、関連カテゴリ「郵送貸出」が作成され、郵送貸出実施機関の一覧が共有され、各機関がウェブサイトに掲載するニュースやお知らせのリンク集が作られた。新たに郵送貸出を開始する機関にとっては、有益な情報源になったのではないか。

同様のイベントとして 2019 年度に実施した「LibrarianMap 活用イベントシリーズ 2019」に比べ、投稿数は格段に多かった。コロナ禍においては、地域ごとの状況に差はあるが、局所的な災害と異なり全国的に同じ課題に直面することとなった。そうした特殊状況下において、一つの情報共有ツールとして LibrarianMap が一定の機能を果たすことができたと考えられる。

2.2. 2020 年度フレッシュパーソンセミナー

オンライン開催となった 2020 年度国大図協東京地区協会・関東甲信越地区協会合同フレッシュパーソンセミナー[3]において、終了後の情報交換の機会を設けることができない代わりに、講義の間のブレイクセッションとして「名刺要らずの自己紹介タイム～LibrarianMap を活用しよう」を実施した。

このセッションにおいて、運営メンバーにより LibrarianMap の紹介及び LibrarianMap

[3] https://www.janul.jp/ja/regional/fps_tokyo_kanto

を用いた受講者同士の自己紹介が行われた。概要は次のとおり。

実施日	2020 年 11 月 12 日（木）11:00-16:10
対象	フレッシュパーソンセミナー受講者（12 機関から合計 27 名）、講師
形式	受講者及び講師に対して事前に LibrarianMap への登録（任意）を依頼し、当日は Zoom のブレイクアウトルーム機能を用いてグループ分けを行い、適宜 LibrarianMap 上のページを画面共有しながら自己紹介を行った。

事前登録は任意としたため、当日までに登録を行った受講者は一部に留まった。

事後アンケートによる受講者の感想からは、今回のブレイクタイムセッションが新任職員にとって、他大学職員との交流の貴重な機会となったことが伺われた。

長引くコロナ禍において、多くの研修やイベントがオンラインで行われることが常態化する中、LibrarianMap を受講者や講師の名刺代わりとして使用したり、参加者同士が事後のつながりを保つために使用したりする可能性を示すことができた。

2.3. 2020 年度 LibrarianMap 関連イベント『他館の職員とつながろう！～LibrarianMap で「名刺交換で終わらない関係」を～』

LibrarianMap が目指す「名刺交換で終わらない関係」について改めて問い直し、図書館員の情報交換の場とするため、オンラインでのイベントを開催した。

基調講演には東京工業大学研究推進部情報図書館課長（所属はイベント開催時のもの）の茂出木理子氏をお招きし、『「つながり」を持つことに前向きになる方法 ～私からのワンポイントアドバイス～』と題してお話しいただいた。

その後、LibrarianMap の紹介に続いて参加者を担当業務別に 3 つのグループに分け、日常業務の困りごとや解決策、他館の職員とのつながりが欲しいと思う場面や、つながりを作るために LibrarianMap を活用する方法についての情報交換を行った。概要は次の通り。

実施日	2021 年 3 月 16 日（火）14:00-16:00
対象	国立大学図書館職員
形式	Zoom によるオンライン開催
参加者	9 名（＋運営メンバー6 名）

参加者は当初の想定と比べて多くなかったものの、そのほとんどが事前に LibrarianMap

への登録、および内容の記入を行っており、LibrarianMap やイベントのテーマへの理解・関心の高い職員が参加したものと思われる。

グループディスカッションでも、単なる日常業務の困りごとの共有に留まらず、その解決策や他館職員とのつながりの構築、LibrarianMap の活用方法にまで話題が広がった。グループディスカッション後の全体への共有内容からも、各グループとも活発に議論が行われたことが伺われた。

事後アンケートでは「自分の常識、思い込みが打ち砕かれた」「刺激的なイベントだった」といった声が聞かれ、人付き合いに関する 3 つの「思い込み」を捨てるという主旨でお話しいただいた基調講演を中心に、概ね好評を得られた。

2.4. 2021 年度 LibrarianMap 関連イベント『突撃！隣の図書館員～LibrarianMap でスキルアップを考えよう～』

LibrarianMap に登録している職員の中には、研究会や作業部会に所属し精力的に活動したり、種々の研修に参加したりと、多様なキャリアを持つ職員がいる。そういった職員の事例共有を通して、主に若手職員のキャリア形成・スキルアップについて考えるきっかけを作ると同時に、LibrarianMap の有用性を広める機会とするため、図書館総合展の会期に合わせオンラインイベントを実施した。

LibrarianMap 登録者の中から 3 名のパネリストを招き、各自のキャリアや経験を事例紹介として発表してもらう、という形式を採った。また、発表後に運営メンバーを司会としてパネルトークを行い、LibrarianMap に登録したきっかけや活用方法などについてパネリストに回答してもらった。概要は次の通り。

実施日	2021 年 11 月 24 日（水）14:00-15:45
対象	国立大学図書館等職員
形式	Zoom によるオンライン開催
参加者	32 名

パネリストの事例共有では、研究会での活動内容や、その中での印象的な出来事などが挙げられ、キャリア形成・スキルアップのために大いに参考になる内容であった。パネルトークでは、LibrarianMap の個人ページの見所や、普段どのように LibrarianMap を活用しているかなど、興味深い話を聞くことができた。また、イベント参加者の質問に対しても、様々な意見が述べられた。全体を通して、LibrarianMap の強みを再確認することができるイベントであった。

イベント参加申し込み時の回答では、参加者のうち 6 割ほどが LibrarianMap 未登録であ

り、LibrarianMap を知らない、もしくは使ったことがない職員からも興味・関心が寄せられたことが伺えた。加えて、LibrarianMap の登録対象ではない国立大学図書館以外の機関の職員からも申し込みがあったことも、LibrarianMap には機関の垣根を超えて広がっていく可能性があることを示唆している。

事後アンケートでも、本イベントに参加した理由として「LibrarianMap に興味があったから」という回答が最も多く、LibrarianMap の知名度が高まっていることが伺えた。また「各種研修などで活用してもよいのでは」「全国的な事業になったらいいと思う」など、今後の LibrarianMap 運営の参考になる意見も多数あった。

3. アンケートの実施

3.1. 概要

今後の事業継続について検討する際の参考とするため、LibrarianMap 登録者を対象にアンケートを行った。

実施期間	2022 年 2 月 10 日（木）～2022 年 3 月 9 日（水）　計 28 日間
対象	LibrarianMap 登録者 137 名 ※ 重複アカウントやメールアドレスが無効なアカウントを除く ※ マイページを作成していない登録者を含む
実施方法	Google フォームを用いて無記名式のウェブ　アンケートを作成し、回答依頼メールを登録者に送信した。アンケートは、利用実態・改善要望・期待度を知るために 3 つのセクションで構成し、最後に回答者の属性を聞いた。
有効回答数	52

3.2. 集計結果

別紙「2021 年度 LibrarianMap 登録者向けアンケート集計結果」を参照のこと。

3.3. 分析とまとめ

アンケートの集計結果をもとに、次のとおりセクションごとの分析を行った。

利用実態（Q1～Q8）

LibrarianMap に登録する動機としては、つながりの形成や自身の経歴の記録が多く選ば

れており、LibrarianMap の企図に沿う結果となっているが、自身のアピールに関してはあまり意識されていないことがわかった。

登録後の感触では、経歴の記録や振り返りには実際に役立っているものの、つながりの形成については十分に期待に応えられていないことがうかがえる。ただし、実際に連絡を取るには至らずとも、他機関の職員の情報を得ることには使われており、若手職員がキャリア形成の参考とすることや、他館の職員を知るきっかけになっている。

一方で登録後にマイページへの情報の書き込みに至らなかったケースも多い。Q3 の自由記述を見ると、登録者数の少なさや活用場面のイメージしづらさから、情報を書き込むメリットが感じられていないことも読み取れる。

改善要望（Q9～Q16）

LibrarianMap の機能に対しては、具体的な要望が多く挙げられている。閲覧機能では、認証の煩雑さの解消とマイページ以外の機能の充実が求められている。マイページの編集機能に関しては、特に直感的な編集・操作への要望が強い。

LibrarianMap の活動については、2020～2021 年度にかけて開催したイベントについて尋ねた。イベント参加者の満足度は概ね良好で、今後取り上げてほしいテーマも具体的なものが挙がっており、一定の成果と期待が見られる。一方で、イベントに参加したことのない回答者も多かった。イベントを通じて活用場面や実績を発信する狙いがあったが、イベントに参加しない人への情報発信も必要であると感じられた。

期待度（Q17～Q18）

今後の LibrarianMap への期待を見ると、Q1 で尋ねた登録前の期待と傾向は一致しており、つながりの形成に対する期待値が大きいことがわかる。運営体制については、継続事業化や全国事業化を提案する声も多い。また、事業を続けるにあたって LibrarianMap の役割の見直しや、顕在化している課題への対処の必要性も指摘されている。

属性

今回のアンケート回答者の 6 割強が東京地区協会会員館の所属者であった。勤務年数は 10～30 年が半数で、4～10 年、1～3 年の若手層が続いている。

まとめ

アンケート結果を通して、LibrarianMap の登録者からは一定の評価や今後の取組みに対する期待が得られていることがわかった。問題点や課題に対する指摘も寄せられており、それらを大別すると、具体的に対処を検討することが可能な技術的・運営面での課題と、LibrarianMap の役割や問題意識の見直しといったコンセプトに係る課題とに分けられる。今後の事業継続にあたっては、それらの課題の整理と計画的なアプローチ、活動の情報発信が必要と思われる。

4. 事業継続性

4.1. 運営体制

LibrarianMap は東京地区協会の助成を受け、単年度事業として運営されている。前年度の活動報告等を受けて当該年度の活動が東京地区協会に認められた後、新たに企画・運営メンバーを東京地区協会会員館から募っている。複数年にわたって活動を続けるメンバーもいるが、メンバーはほぼ毎年入れ替わる。

また、世話役として当該年度事業の主担当大学から 1 名が参加するほか、後述するサーバ管理及び MediaWiki 管理の支援を受けるため、外部有識者に技術指導を依頼している。

2020～2021 年度における運営体制の内訳は次のとおりである。

2020 年度運営体制の内訳
企画・運営メンバー　4 名（東京大学 2、東京工業大学 1、一橋大学 1） オブザーバー　2 名（お茶の水女子大学 1、横浜国立大学 1） 世話役　1 名 技術指導者　1 名　［計：8 名］

2021 年度運営体制の内訳
企画・運営メンバー　6 名（東京工業大学 1、東京大学 4、東京海洋大学 1） オブザーバー　1 名（東京大学） 世話役　1 名 技術指導者　1 名　［計：9 名］

4.2. 維持管理業務

4.2.1. サーバ管理

LibrarianMap のため、「XSERVER レンタルサーバー」を契約している。現状では、当該年度の活動が認められる都度、1 年間の契約更新を行っている。地区協会事業では法人契約が難しいため、2020 年度までは運営メンバーの個人名義で契約を行っていたが、メンバー交代に伴う名義変更手続きをなるべく減らすために、2021 年度に世話役の個人名義で契約を行う運用に変更した。

4.2.2. MediaWiki 管理

MediaWiki に重大なアップデートが行われた場合には、バージョンアップを行う。2021 年 7 月には、Ver. 1.31 から Ver. 1.35 へのバージョンアップを行った。

また、使用している拡張機能のアップデートや、必要に応じて新しい拡張機能の追加も行っている。2020 年度には動画再生のための拡張機能「TimedMediaHandler」を追加したが、前述した MediaWiki のバージョンアップに伴いエラーが発生したため、2022 年 3 月時点では無効としている。2021 年度にはマイページの編集を容易にする方策として新たな拡張機能の追加を検討したが、本番環境への導入は見送りとなっている。詳細については別紙「2021 年度 LibrarianMap 技術的検討報告書」を参照のこと。

更に、LibrarianMap のセキュリティ確保のために年に 1 度 BASIC 認証の ID 及びパスワードを変更し、登録者に通知している。

この他、異動等に伴う登録情報の変更依頼や、登録メールアドレスが無効となっているユーザーへの個別連絡、誤って二重登録されたアカウントデータの統合等、MediaWiki 上で管理・運用している LibrarianMap の各種データのメンテナンスを行っている。

4.3. 費用負担

LibrarianMap の運営にかかる必要最低限の費用として、レンタルサーバー契約料金及び技術支援謝金がある。

レンタルサーバーは上述の「XSERVER レンタルサーバー」のスタンダードプランを 1 年間契約しており、13,200 円／年を支出している。これに加えて、サーバ契約名義変更手続きが必要な場合は、それに伴う事務費用として 1,000 円程度の支出が必要となる。

サーバ管理及び MediaWiki 管理にあたっては、活動初期から外部有識者 1 名より技術支援を受けている。技術支援の内容としては、ミーティングへの参加に加え、日常的なサーバ及び MediaWiki 管理上の課題・トラブル解決支援、LibrarianMap の技術的改善・検討に対する助言等である。その謝金として、2020 年度は 5,700 円、2021 年度は 11,780 円をそれぞれ支出している。

この他、図書館総合展への出展料や、イベント登壇者への謝金等、広報活動にかかる費用が発生する。なお、コロナ禍におけるこの 2 年間の活動は、ミーティングやイベントの実施が基本的にオンラインとなったことから、旅費や会場使用料を計上していない。今後もオンライン中心の活動が続くと考えられるが、全く考慮しなくてもよいものではないと思われる。

2020 年度支出内訳	
サーバ契約料	13,200 円
技術指導謝金	5,700 円
図書館総合展出展料（ポスターセッション）	8,250 円
振込手数料	660 円
合計	27,810 円

2021 年度支出内訳	
サーバ契約料	13,200 円
サーバ契約名義変更に伴う事務費用	1,050 円
技術指導謝金	11,400 円
図書館総合展出展料（ポスターセッション）	11,000 円
司会・報告謝金（イベント登壇者）	9,200 円
振込手数料	980 円
合計	46,830 円

4.4. まとめと考察

既に述べたとおり、LibrarianMap は国大図協の東京地区協会助成事業により、毎年度承認を得る形で運営されている。このことにより、事業の継続性に関する課題が 3 点あると考えられる。

まず、年度末に一度事業が終了してから、新年度の体制が発足し、活動を開始するまでに 4 ヶ月ほどの空白が発生してしまう点である。この間に発生するサーバ管理や MediaWiki 管理、問合せ対応等は、前年度の運営メンバーが対応している。

次に、運営メンバーの任期も 1 年間であることから、毎年多くのメンバーが入れ替わってしまう点である。これにより十分な引継ぎができず、また、活動を継続するメンバーに負担が集中してしまうことが懸念される。

加えて、東京地区協会の事業であるため、運営メンバーは東京地区内から募っている。しかしながらサービス対象は全国へと拡大され、LibrarianMap に興味・関心を持つ職員は東京地区に留まらないと考えられる。他地区へのアプローチも課題となる中、より多様な運営メンバーによるアイディアや発信力が必要と思われる。

これらの課題を解決するためには、複数年度事業として実施するほか、国大図協の全国事業として実施することを検討し、また、その両者を掛け合わせるといった方策がとられることが望ましいと考える。

5. LibrarianMap のこれから

LibrarianMap は、「各自の経験、知識、スキルを『見える化』することで、所属・機関を越えてネットワークを拡げるとともに、国大図協東京地区の人的リソースを最大限に活用すること」を主たる目的として、2018 年度から企画・構築、運用を行なってきた。その出発点には、人員が減っていく中で特に同世代の職員との関わりを持つ機会が少なく、自機関内に業務やキャリアについて相談できる人がいない、機関の枠を超えたつながりを確保する手段が欲しい、という若手職員の問題意識があった。2020 年度には東京地区から全国に登録対象者を拡大し、サービスの運用だけではなく関連イベントの開催等を通じて、更なる機能の強化を図ってきた。

本稿では、正式運用に移行した 2020 年度から 2021 年度にかけての活動を振り返ってきた。課題は散見されるものの、LibrarianMap というツールやイベントを通して、目的に対する一定の成果と、今後の事業継続に対する期待が得られていると考えられる。

さらに、2020 年初頭から始まり未だ終息の気配のないコロナ禍においては、特に所属機関を超えた交流および人的ネットワークの構築へのハードルは以前よりも高くなっていると思われる。数年前まで、図書館員は多様な研修やイベントへ参加する機会があり、それらを通じて他機関の職員とのネットワークを形成し、情報収集や自身のスキルアップに活かしていた。しかし、コロナ禍においては研修やイベントは主にオンラインでの開催となり、参加者 1 人 1 人と密なやり取りを行うことは難しくなった。

この状況において、LibrarianMap が果たすことのできる役割は大きいと考える。LibrarianMap はウェブ上のデジタルコンテンツであり、時間や場所、距離による制約はない。コロナ禍初期に設置した新型コロナウイルス感染症対応に関する情報共有のためのページに多くの書き込みがあった点から見ても、LibrarianMap は情報共有および情報蓄積の点で大きな強みを持っていることが伺える。また、正式運用開始から 2 年経った現在でも一定の水準で稼働していること、関連イベントに国立大学図書館以外の機関の職員からの申し込みがあることなどを踏まえると、図書館員の新たな交流の場として LibrarianMap が注目されていると言えるのではないだろうか。

このように 2018 年度から活動を継続する中で得られた成果や今後の展望がある一方で、現状の運営体制により活動に制約が生じていることもまた事実である。本稿 4.4 でも言及した通り、LibrarianMap は単年度事業であり、運営メンバーの任期も 1 年であることから、年度を跨いだ中長期的な事業計画を立てることが難しく、単発のイベントなどを企画・開催することが精一杯である。技術面においても、スキル・知識の蓄積ができず、

LibrarianMap の機能面での課題に対して十分にアプローチできていない。また、他地区へのリーチを高めるためには、他地区の職員にも参画してもらうことが望ましい。

LibrarianMap は、単発の研修イベントを企画・運営することが通例であった地区助成事業において、新たな活動のあり方を模索してきた。若手職員が抱える問題意識に真摯に向き合い、一つのサービスに昇華させ、運営を行なってきたことは、これに携わる職員の育成においても大きな意義があったと考えられる。一方で、LibrarianMap を通じて利用者が利益を享受するためには、LibrarianMap の更なる発展を目指しつつ事業を継続することが肝要と思われる。複数年度事業としての実施や、国大図協の全国事業としての実施といった運営体制の見直しについて具体的に検討を進めつつ、今後の事業継続のあり方を模索していきたい。

別紙 1

2021 年度東京地区協会地区助成事業 LibrarianMap 関係者一覧

〈企画・運営メンバー〉

岩永 菜美（東京工業大学）
大橋 拓真（東京大学）
尾城 友視（東京大学）
塚本 麻衣子（東京大学）
瑞島 真弥（東京大学）
嶺井 尚子（東京海洋大学）

〈世話役〉

細川芽（東京大学）

〈技術指導〉

田辺 浩介（物質・材料研究機構）

（五十音順）

LibrarianMap登録のご案内

LibrarianMap
国立大学図書館協会東京地区

LibrarianMapとは？

LibrarianMapは、国大図協会員館の方々ご自身にデータを登録していただき、各自の経験・知識・スキルを「見える化」するシステムです。このシステムによって、所属を超えたネットワークを広げる足掛かりを作るとともに、全国に広がる国大図協の人的リソースを最大限に活用することを企図しています。
LibrarianMapは、国立大学図書館協会東京地区協会総会にて令和3年度東京地区地区協会助成事業として継続されることが了承されました。

LibrarianMapでできること

★自分について登録し、発信する
自由かつ簡単に、自分の情報を掲載したマイページを作成できます。自分の職歴が集約されたアーカイブとしても活用可能です。
- 氏名、所属、勤務地、連絡先等の基本情報
- 経験、知識、スキル、経歴、関わった事業や組織
- 仕事以外の情報（趣味・特技…）　　など…

★多様な検索方法で人を見つけ、知る
他機関で働く職員のデータベースとして、色々な切り口から検索ができます。連絡先が掲載されていれば、必要に応じて連絡を取ることも可能です。
- フリーワード検索
- 所属機関からの検索
- 地図検索
- 業務やスキルからの検索（カテゴリ機能による検索）

★カテゴリ機能を使ってつながりを発見する
所属やスキル等を表すキーワードをマイページにタグのように付与することで、同じタグを付与した人がグルーピングされます。

対象範囲

★IDとパスワードで認証
閲覧（アクセスID・パスワードの共有）、データ登録は、国大図協会員館の職員等を対象にしています。

※ID・パスワードは1年に1度の更新を予定しています。
※ID・パスワードによる閲覧制限は、関係者以外が閲覧しにくくするためのもので、関係者以外の閲覧を完全にブロックできるものではありません。第三者に知られて困るような情報は書き込まないなど、データを登録される際や閲覧される際には、各自でご注意ください。

登録者数は2021年12月7日時点で134人です。

LibrarianMap

URL: https://ex.librarianmap.org
アクセスID: ********
パスワード: ********

ご登録はLibrarianMap内の案内ページに従って行ってください。

地区協会助成事業成果報告書:
https://www.janul.jp/ja/regional/promotion_tokyo

お問い合わせ先:
admin@librarianmap.org

LibrarianMapを通じて他大学・機関の方や取り組みに出会い、新たなつながりを作りませんか？　皆様の登録をお待ちしています。

4年目の LibrarianMap
国立大学図書館協会東京地区

名刺交換で、
終わらない関係を。

LibrarianMap って何？

LibrarianMap は、「各自の経験、知識、スキルを「見える化」することで、所属機関を越えてネットワークを広げるとともに、全国に広がる国大図協の人的リソースを最大限に活用すること」を主たる目的とした Web サイトです。

平成 30 年度国立大学図書館協会東京地区地区助成事業として構築され、令和２年度から正式運用を開始しました。

閲覧（アクセス ID・パスワードの共有）、データ登録は、国大図協会員館の職員等を対象にしています。

なぜ LibrarianMap を作ろうと思ったのか？

業務で困ったときに頼れる人がほしい。

先輩の歩んできたキャリアを知りたい。

継続的に連絡を取れるような人を増やしたい。

同世代で同じように働いている人と知り合いたい。

図書館員どうしが繋がれるツールを作りたい！

こんなところにこだわりました

手軽に情報を更新できるように！

編集しやすいマイページ

目的に応じて人を探せるように！

見つけやすい検索機能

いろんなテーマで人と繋がれるように！

- 事務局経験あり (3項目)
- 他機関出向 (4項目)
- 信州大学 (1項目)
- 利用者サービス (6項目)
- 北海道大学 (3項目)
- 医学図書館 (1項目)
- 千葉大学 (2項目)
- 受入業務 (3項目)
- 受入業務（図書） (1項目)
- 名古屋大学 (1項目)
- 呑まないライブラリアン (2項目)

自由なカテゴリ設定

これからどうする？LibrarianMap

LibrarianMap を活用してもらう

いかに登録者に継続的に情報を更新してもらうか
登録者同士のネットワーク、コミュニケーションをどう広げていくか

LibrarianMap の対象範囲拡大

これまで東京地区中心だった対象範囲を全国に拡大
さらなるネットワークづくりを目指し登録者増をめざす

オンラインイベント開催！
日時：11/24（水）14:00-15:45　対象：国立大学図書館等職員　詳細はポスター掲載ページをご確認ください。

2021 年度 LibrarianMap 登録者向けアンケート集計結果

１．アンケート実施概要

今後の事業継続について検討する際の参考とするため、LibrarianMap 登録者を対象にアンケートを行った。

実施期間	2022 年 2 月 10 日（木）～2022 年 3 月 9 日（水）　計 28 日間
対象	LibrarianMap 登録者 137 名 ※ 重複アカウントやメールアドレスが無効なアカウントを除く ※ マイページを作成していない登録者を含む
実施方法	Google フォームを用いて無記名式の Web アンケートを作成し、回答依頼メールを登録者に送信した。アンケートは、利用実態・改善要望・期待度を知るために 3 つのセクションで構成し、最後に回答者の属性を聞いた。
有効回答数	52

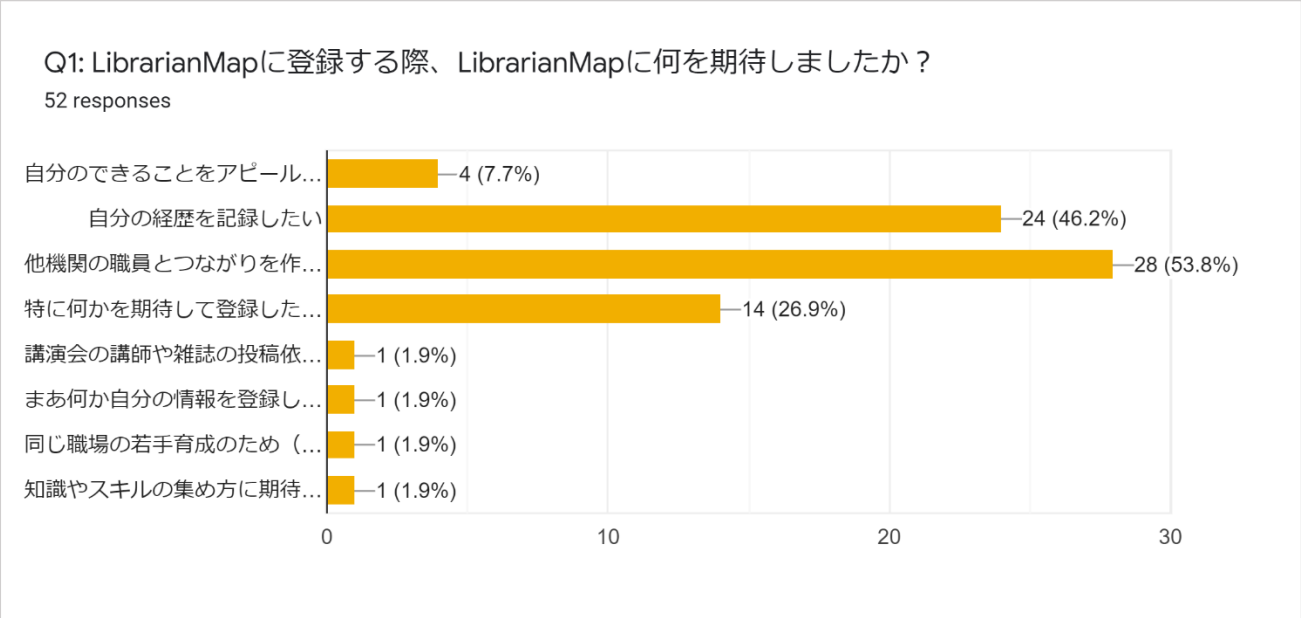
次項にて設問と集計結果をまとめる。なお、集計結果に対する所見は「2020-2021 年度 LibrarianMap 活動報告書」に記載する。

2．設問と集計結果

Q1: LibrarianMap に登録する際、LibrarianMap に何を期待しましたか？【必須・複数選択可】

《選択肢》

- 自分のできることをアピールしたい
- 自分の経歴を記録したい
- 他機関の職員とつながりを作りたい
- 特に何かを期待して登録したわけではない
- その他（記述可）



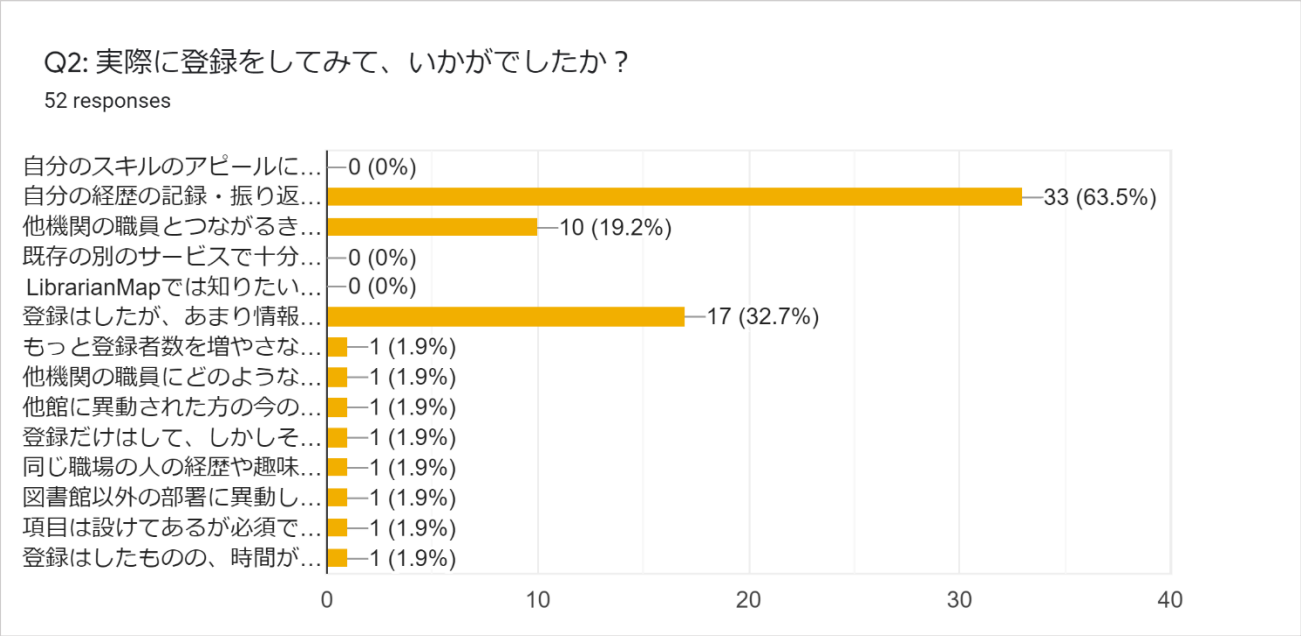
▼「その他」の記述内容

講演会の講師や雑誌の投稿依頼をする際に役に立ちそうなので期待しています。登録者数を増やすためにはまず自分の情報を載せようと思い登録しました。
まあ何か自分の情報を登録しておけば誰かがそれを見るかもしれないな、位のきもちで登録しました。
同じ職場の若手育成のため（該当者に登録を勧め、フォローのため自分も登録した）
知識やスキルの集め方に期待をしたが。

Q2: 実際に登録をしてみて、いかがでしたか？【必須・複数選択可】

《選択肢》

- 自分のスキルのアピールにつながった
- 自分の経歴の記録・振り返りに役立った
- 他機関の職員とつながるきっかけになった
- 既存の別のサービスで十分だと思った
- LibrarianMap では知りたい情報が手に入らなかった
- 登録はしたが、あまり情報を書き込もうと思わなかった／書き込みづらく断念した
- その他（記述可）



▼「その他」の記述内容

もっと登録者数を増やさないと利用価値が出てこないと思います。これからに期待しています。
他機関の職員にどのような人がいるか閲覧するのが楽しい。閲覧専用アカウントとなりつつある。
他館に異動された方の今の所属を知れたり、会ったことのない方の様子を知ることができました。
登録だけはして、しかしその後なんとなくほったらかしになってしまっています。すみません・・・
同じ職場の人の経歴や趣味を知ることで会話のきっかけとなった
図書館以外の部署に異動してしまったため、書くことが少なくなってしまった。
項目は設けてあるが必須ではないし、同一項目であっても記入の仕方、書き方もバラバラで統一感がなく、他の参加者の中身も不完全であったり、多すぎてみるに堪えないものだったりと統制がとれていないと思います。自分の経歴や成果を文字羅列して、これがリソースとして活用されるのか、その先に何かあるのかが不明で現状ではアクセスをしなくなっています。
登録はしたものの、時間が取れず詳細を記入できていないので、まずは登録内容を充実させようと思う。

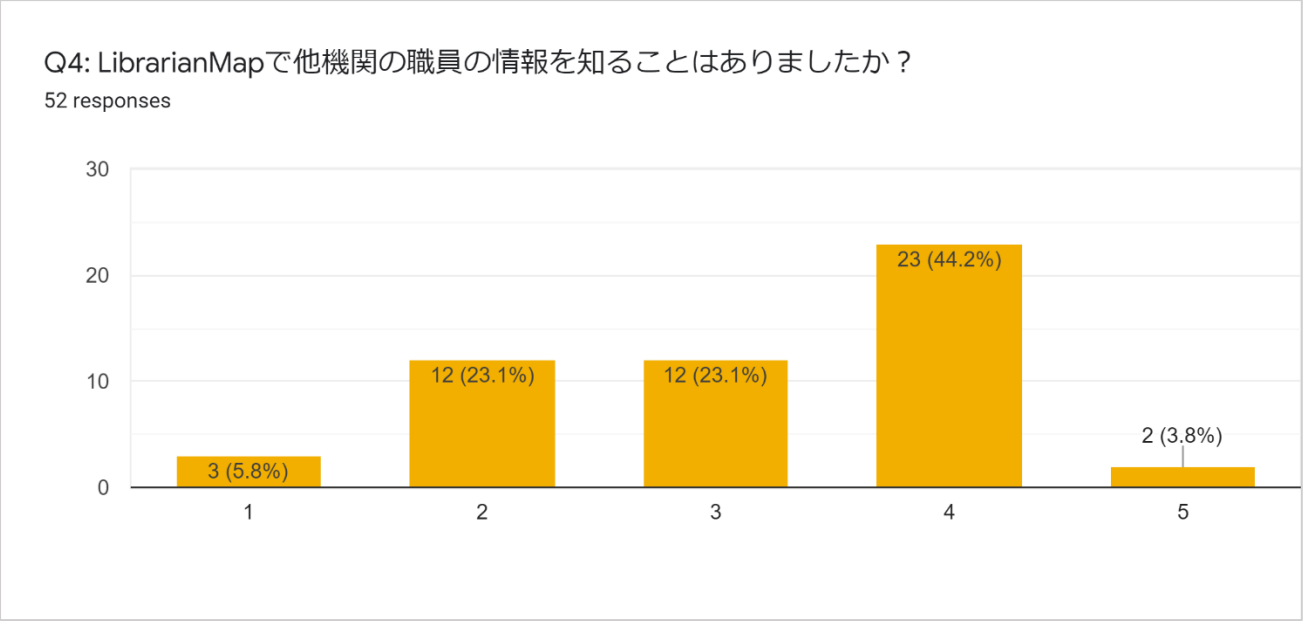
Q3: Q2 でそのように感じた理由を教えてください。【自由記述】

そんなに実績がないから。
随時更新できることで、人事関連の調書に記載する研修歴などを日頃から記録できる点は便利だった。また他機関の職員に原稿依頼を行う際など、連絡先や過去の担当業務などをすぐに参照できとても便利だった。
スキルや経歴といったくくりではなかなか書きづらく，面倒だった（書きたくならなかった）ため。ただ，時間ができたら，趣味や嗜好について書いてみようと思っています。そんな記述も OK ですよね？
自分の経歴を提出しなければならない場面で、XXXX 年に何をしたかを振り返るのに便利でした。
登録者数が少ないので。
自分自身には書けるほどの経歴がない
登録後、書き込みをしたいとは思ったのですが、なかなか時間が取れず、作業が進んでいません。また、あとの設問にもありましたが、あまり使い慣れないシステムなので、操作方法に戸惑ってしまった面もあります。
最近の更新の箇所をよく見ているので、他館の人の情報を得られました。
極端には「クローズにしてはユーザ数が少ない」「オフィシャルかどうかが曖昧である」ため。(1)経歴の管理としては登録の先に「コミュニティとしての交流」を想定できれば更新もしてゆく気になるが、現状では見えづらく、自身としては「外部のオープンなサービスを随時更新し、そのリンクを本サービスに貼る」選択をしている（LM にオープンで書きにくいことを書けるメリットは感じている）。(2)連携展開については「ゆるっと繋がる」くらいを想定すると、それに業務範囲内外のコストをどれくらいかけてよいか、かけるべきか、かけたいかの水準が合っていない（明らかでない）ところに難点があるように感じられる。見る専（あまり話しかけないで)、1 レスポンスで親友だ！（飲もう！）の違いが判ると交流もしやすいか？カテゴリでスタンスを表すことができればよいか。
特に自分の経歴を記録したいわけではない
頻繁にログインしないため、ログイン方法やページの編集方法などを思い出すのが億劫になってしまった。ログインすると、自分の興味の範囲や参加した研修などを振り返ることができた。
なにか他大学の情報を知りたい時には組織のほうに連絡をしてしまうので、最初から個人間でのやり取りをするということが、あまりないからかな…と。
・自分の経歴をまとめておき随時更新できる場所は他になく、貴重な場として使わせていただいている。定期的に振り返る機会にもなる。 ・コロナ禍では特に他機関の職員のことを知れる機会はなかなかなく、研修等の機会に参照できるのが良い。
必要なつながりは別途持つことができたこと、日常業務の慌ただしさにより落ち着いて更新する時間が持てなかったため
身上調書などよりも自分の経歴を Web 上で手軽に振り返ることができる。
あくまでクローズな環境であるという触れ込みであったはずが、共有範囲がどんどん広げられていくような気がしたため。
受講した研修を記載するために整理することがあったため
キャリアの棚卸しをすることによって、今後のことを考えるために頭の整理になった。LibrarianMap で見たという方から原稿の依頼があった。

自身の経歴に関しては、ResearchMap を使う方がより適切かと思いました。一方で、クローズドであるがゆえか、LibrarianMap にはある程度安心感があり、ResearchMap にかけないことを書かれている方もいて、人となりを知るうえで参考になりました。
自分の経歴や業務経験を書き出すのは面白いし、後々で参考になる。他の職員の方の業務経験を見ることで自分も頑張ろう！ という気持ちになれる。
登録はしたものの、感染症の影響もあってか現在のところ活用の機会があまりない。他機関の職員と同席した際、どういった人物なのかを知るのに便利であると考え、積極的に自分の情報を書き込んでいる。
他の人がどんな仕事に携わり、携わっていたのか、知ることができました。直接連絡を取らない場合でも、有用に感じました。
どのように活用できるかイメージできず、日常業務を優先していた
職場に提出する意向調書の提出や、過去に参加した研修の記録や資料を確認する際に役に立ちました。また、異動先の機関の方について予め LibrarianMap を参照するなど、相手のことを知り、会話のきっかけにするといったこともありました。
経歴を書いたところで誰かと繋がれるのか懐疑的だった。どのくらい LM が活用されているのかわからなかったので、発見性には乏しいと感じた。
経験や知識、スキルの見える化やリソースの活用を謳っていますが、果たしてそれが実現できているのでしょうか。また、その方向に向かっているのでしょうか。甚だ疑問です。　現時点では個人履歴・成果を登録していますが、そこから知識やスキルが見えませんし、経歴＝スキルや知識とは限りません。　今後それがどのように有効活用していくのかが見えません。履歴書を集めてもリソースの活用にまでは発展しないのではと感じた次第です。
コメント欄に記入した通りだが、ページ作成のためにある程度まとまった時間が必要になるので、その点は多少ネックかなと感じた。

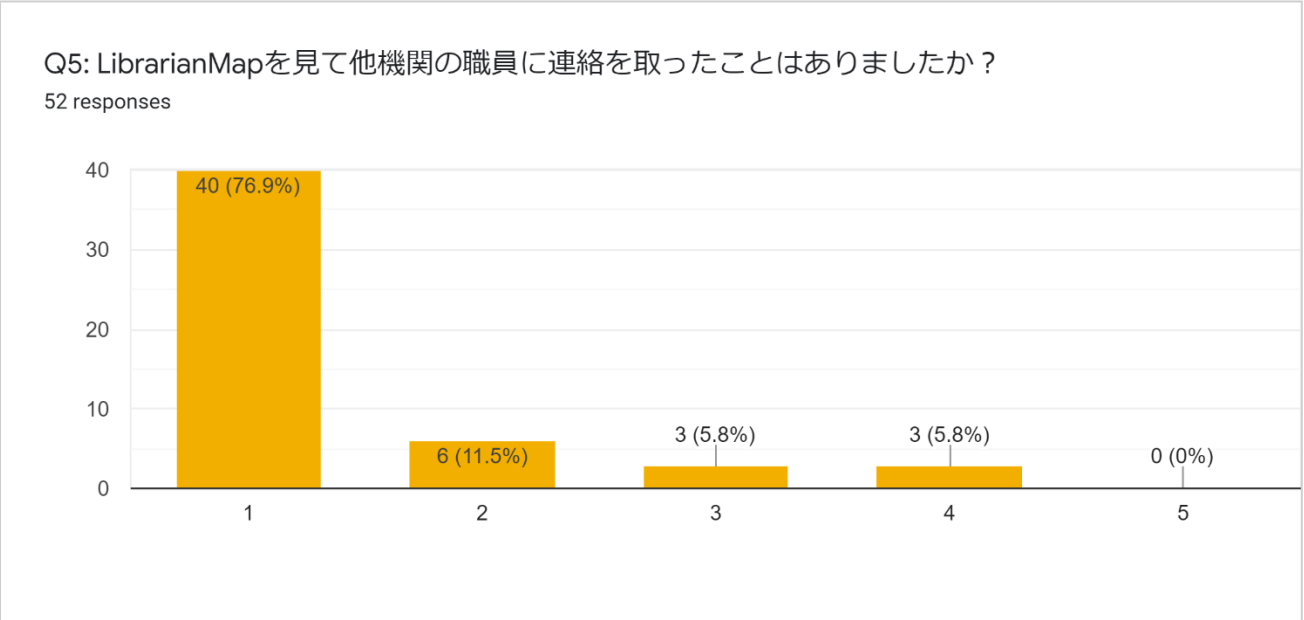
Q4: LibrarianMap で他機関の職員の情報を知ることはありましたか？【必須】

＊「1：まったくなかった」～「5：よくあった」の 5 段階から選択



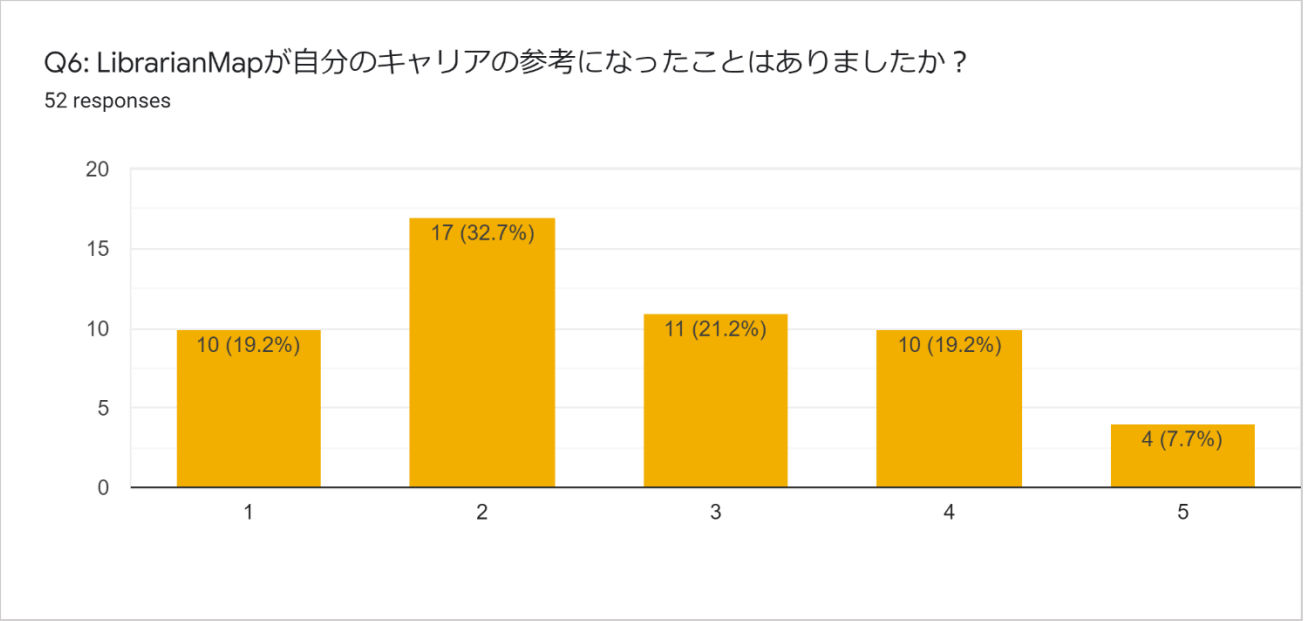
Q5: LibrarianMap を見て他機関の職員に連絡を取ったことはありましたか？【必須】

＊「1：まったくなかった」～「5：よくあった」の 5 段階から選択



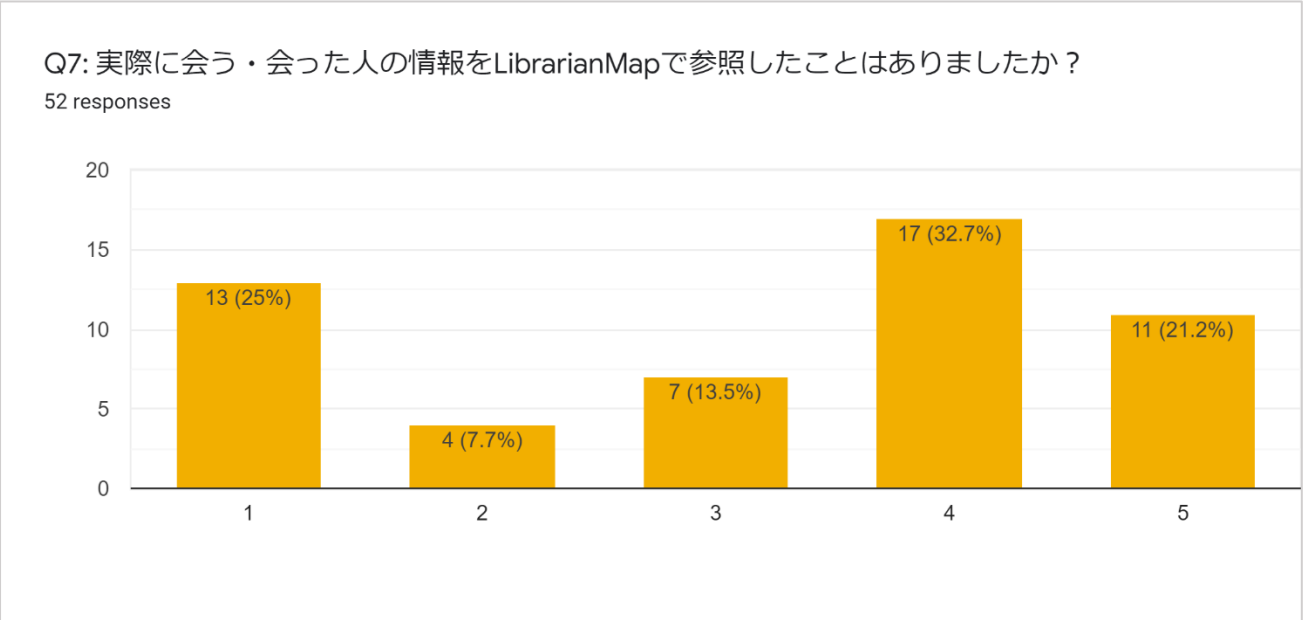
Q6: LibrarianMap が自分のキャリアの参考になったことはありましたか？【必須】

＊「1：まったくなかった」～「5：よくあった」の 5 段階から選択



Q7: 実際に会う・会った人の情報を LibrarianMap で参照したことはありましたか？【必須】

＊「1：まったくなかった」～「5：よくあった」の 5 段階から選択

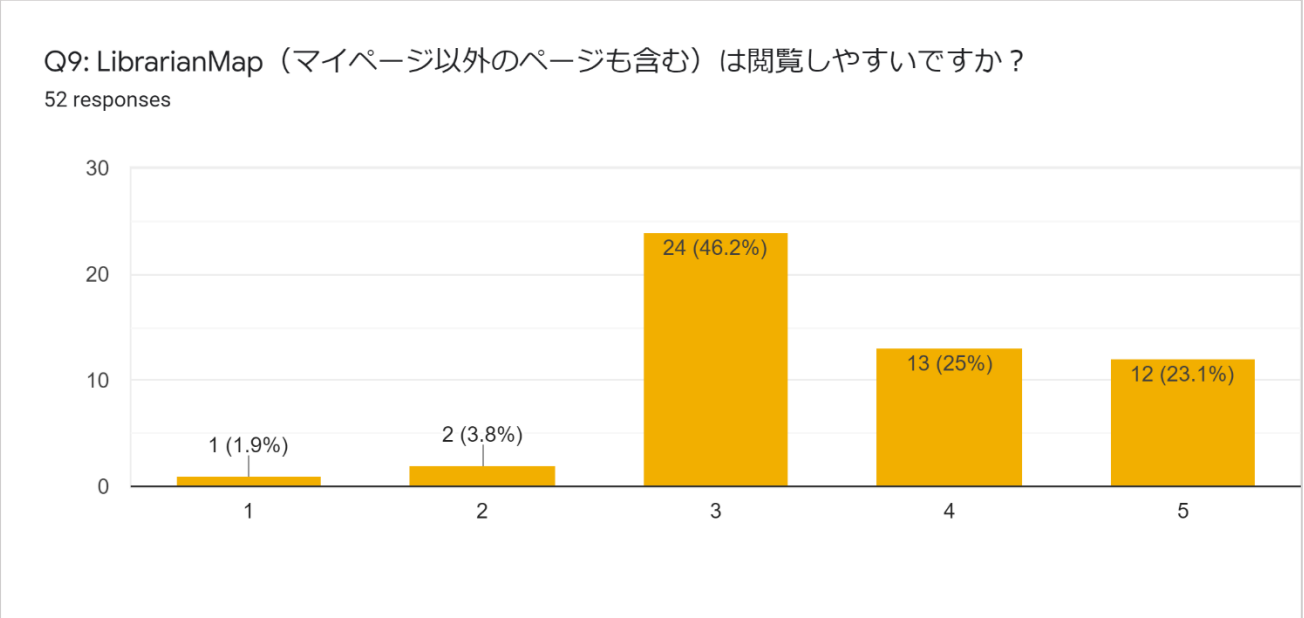


Q8: その他に、LibrarianMap が役に立った場面がありましたら教えてください。【自由記述】

特に無し。雑誌の原稿執筆依頼をするのに役立つかと期待しましたが、ほしい情報は得られませんでした。
異動した人のその後の連絡先を参照できた。
旧知の方の動向が知れた
実際に連絡を取る段階には至りませんでしたが、勉強会等の企画をする際、あるテーマについて詳しい人を探すのに LibrarianMap を参照しました。
全国で色々な図書館員の方が働いておられるんだなあということを、可視化されることでかなりリアルに想像することができた。どういう人がいるのか「想像もつかない」という状態とは雲泥の差だと思う。
Q3 の通り
イベントの登壇者を探す際に、カテゴリなどの機能も使いつつ、LibrarianMap の情報を参照しました。実際に登壇依頼を行い、受けていただくこともできました。
特にないです。
自分の同期のページがあり、今どこでどのような業務をしているのか知ることができた。

Q9: LibrarianMap（マイページ以外のページも含む）は閲覧しやすいですか？【必須】

＊「１：閲覧しやすくない」～「５：閲覧しやすい」の 5 段階から選択

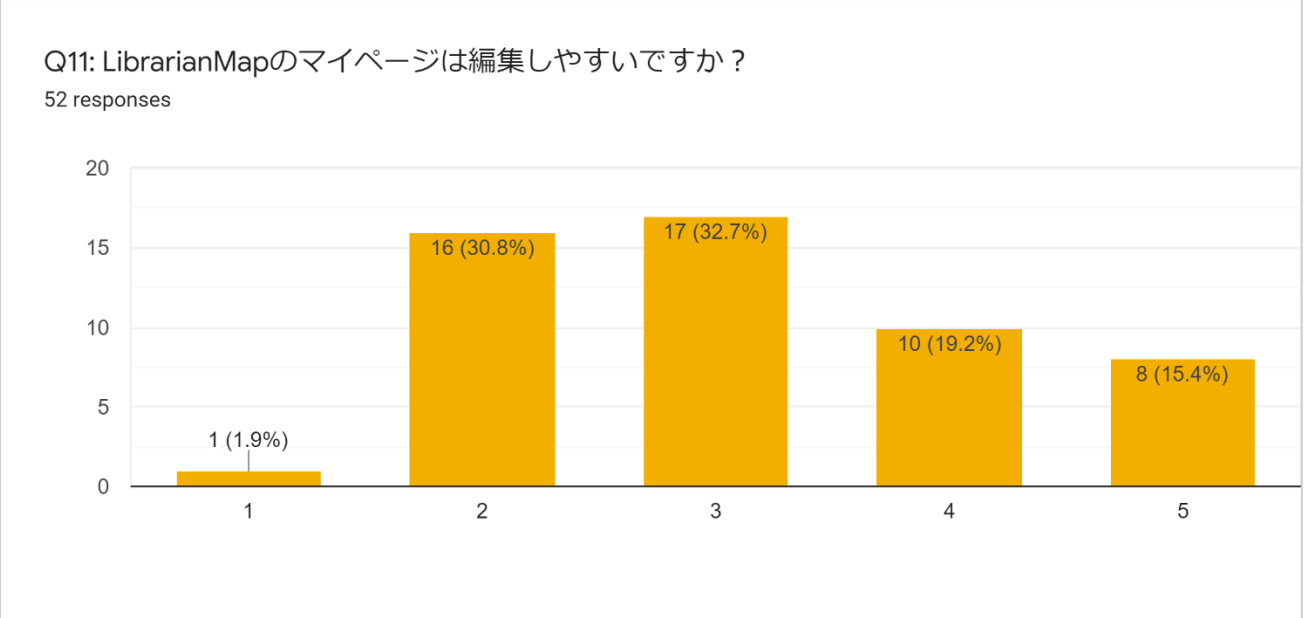


Q10: LibrarianMap（マイページ以外のページも含む）をより閲覧しやすくするために、改善すべきと思うことがありましたら教えてください。【自由記述】

特に無し
共通 ID とマイページアカウントの二段階認証にする必要はあるのでしょうか。ユーザー登録（マイページアカウント）だけのほうが使いやすいように感じます。
見ようと思ったときに ID/Pass が変わっていたりして、閲覧できず、あきらめてしまうことがあります。いい解決方法は思いつかないですが、セキュリティを保ちつつ、認証でつまずかない方法があるといいと思います。
文字ばっかりでは飽きるし読むのも疲れます。　マイページ以外の共有すべき情報ページや共有作成ページ（知識やスキルを出し合えるようなページ）があればと感じます。

Q11: LibrarianMap のマイページは編集しやすいですか？【必須】

＊「１：編集しやすくない」～「５：編集しやすい」の 5 段階から選択



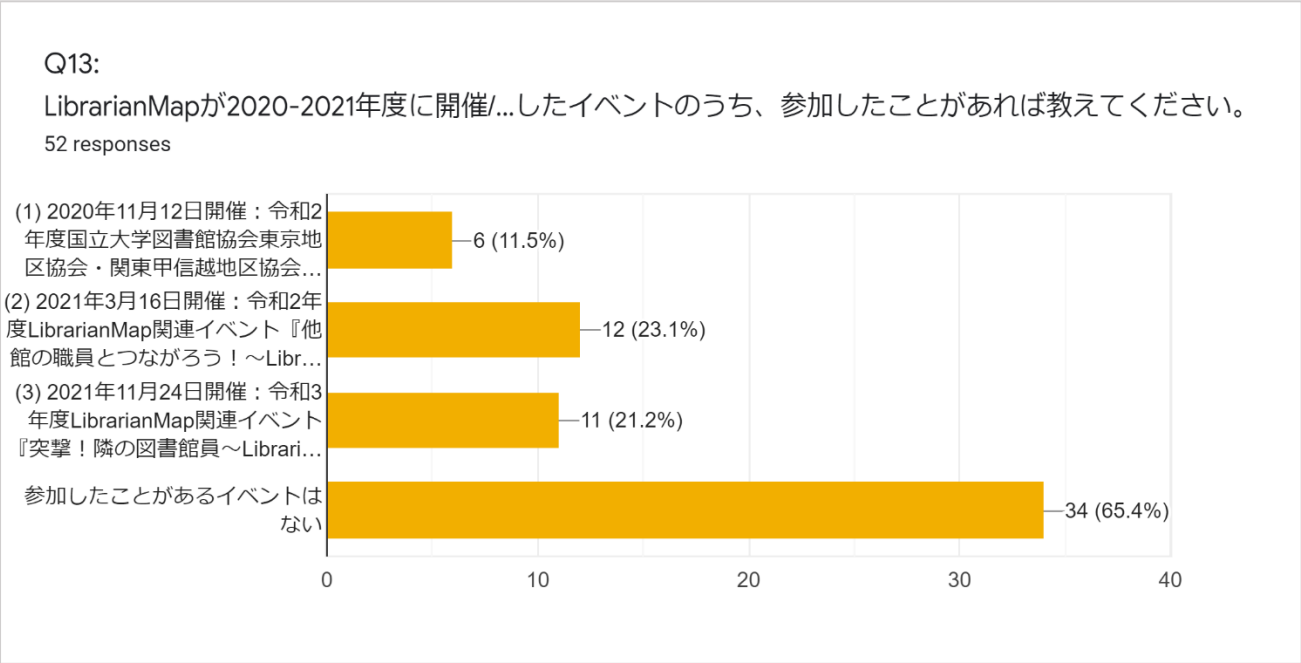
Q12: LibrarianMap のマイページをより編集しやすくするために、改善すべきと思うことがありましたら教えてください。【自由記述】

年単位で情報が蓄積されていった場合に、過去分を折り畳み表示にしたりするなど過去分の記載内容も適切にアーカイブできると良い。また少しずつでも日常的に更新することを促すような工夫が運営面も含めてより行われると良いかと思う。
特に無し
もう少し直感的な操作ができるようになると良いと思う(境界線を引く、イラスト挿入等)
入力した内容がそのままプレビューできる機能があると嬉しいです。
プレビュー機能が復活すると嬉しいです。
カテゴリの設定方法がよくわかっていません…。
より直感的に編集できると良い。
少なくとも編集は個人認証でもよいのではないか
入力テンプレートを増やしてみてもよいと思う
技術的に厳しいと思いますが、ResearchMap との連携でしょうか。
写真の登録が失敗することがあった（かなり以前なので今は違うかもしれません）
初心者でも簡単に編集できると思うが、ブログ編集や HTML コードを扱った経験等のない人には心理的に敷居が高く感じられるかもしれないが、wiki の仕組み上、仕方のないことだとは思う。
マイページ作成・編集 の編集にて、画面中央にローディングアニメーションが出てしばらく入力できないことがあること。日を改めて入力しています。
直感的に更新できるよう、ビジュアルエディターのような形になるとよいと思います。

Q13: LibrarianMap が 2020-2021 年度に開催/協力したイベントのうち、参加したことがあれば教えてください。それぞれのイベントの詳細は、LibrarianMap 内の「LibrarianMap 活用事例の記録」をご覧ください。https://ex.librarianmap.org/wiki/LibrarianMap:Cases【必須】

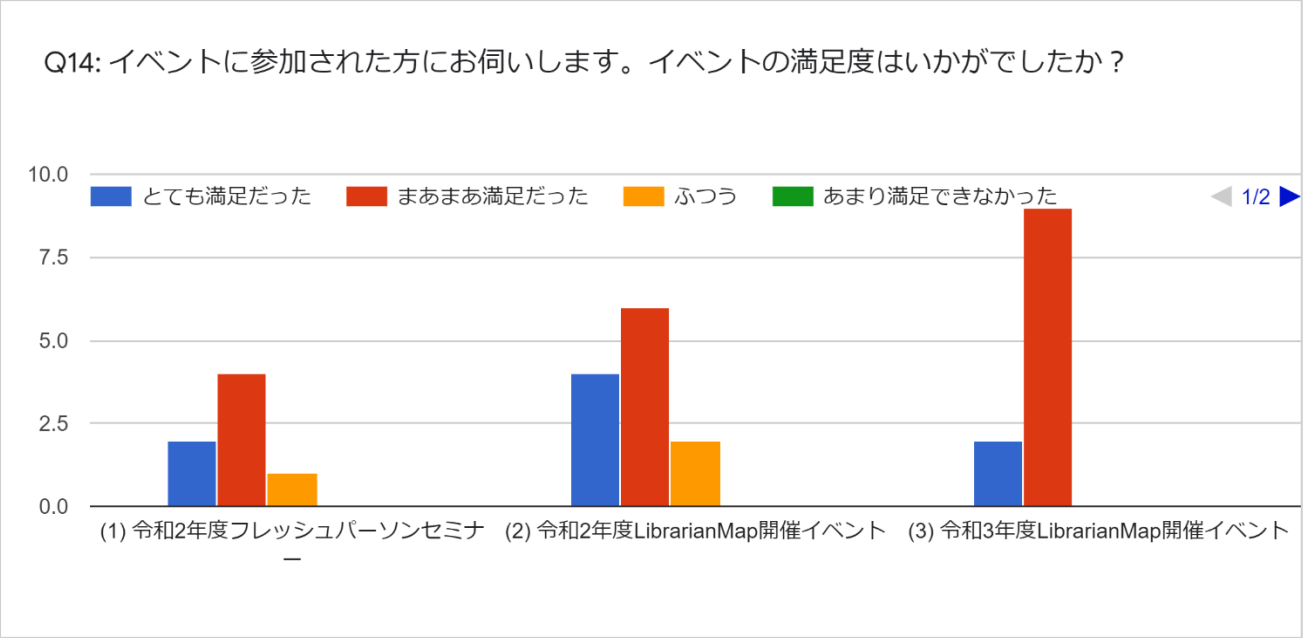
《選択肢》

- 2020 年 11 月 12 日開催：令和 2 年度国立大学図書館協会東京地区協会・関東甲信越地区協会合同フレッシュパーソンセミナー
- 2021 年 3 月 16 日開催：令和 2 年度 LibrarianMap 関連イベント『他館の職員とつながろう！～LibrarianMap で「名刺交換で終わらない関係」を～』
- 2021 年 11 月 24 日開催：令和 3 年度 LibrarianMap 関連イベント『突撃！隣の図書館員～LibrarianMap でスキルアップを考えよう～』
- 参加したことがあるイベントはない



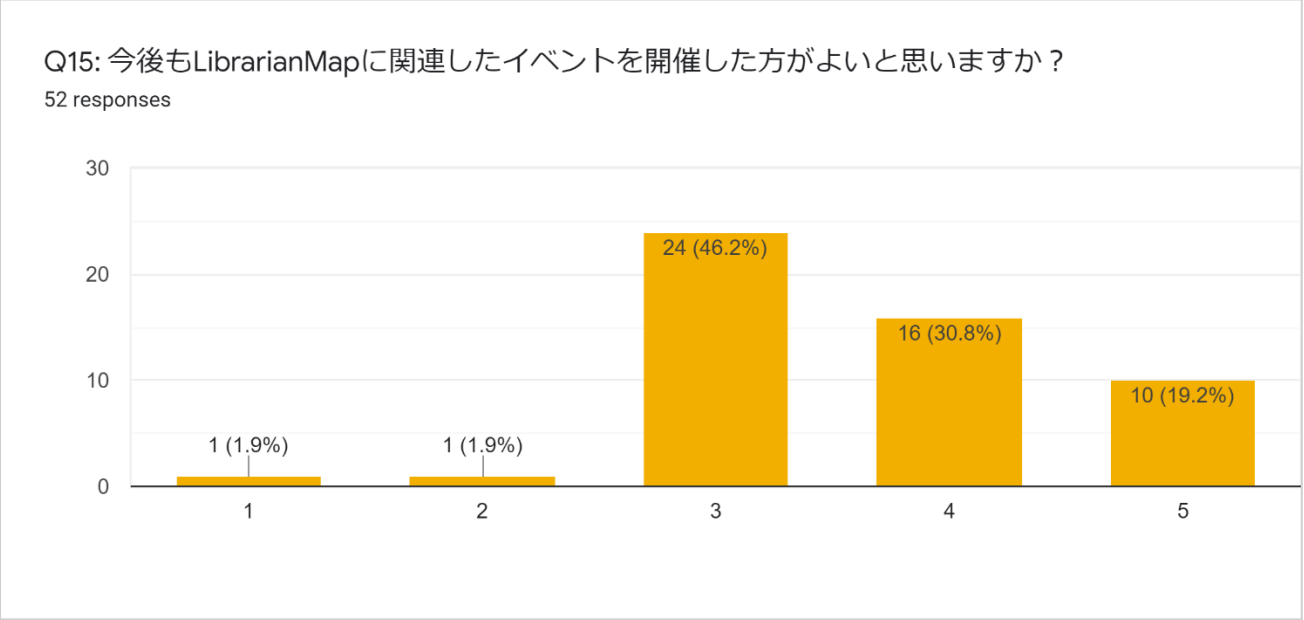
Q14: イベントに参加された方にお伺いします。イベントの満足度はいかがでしたか？

＊「とても満足だった」～「まったく満足できなかった」の 5 段階から選択



Q15: 今後も LibrarianMap に関連したイベントを開催した方がよいと思いますか？【必須】

＊「1：そう思わない」～「5：そう思う」の 5 段階から選択



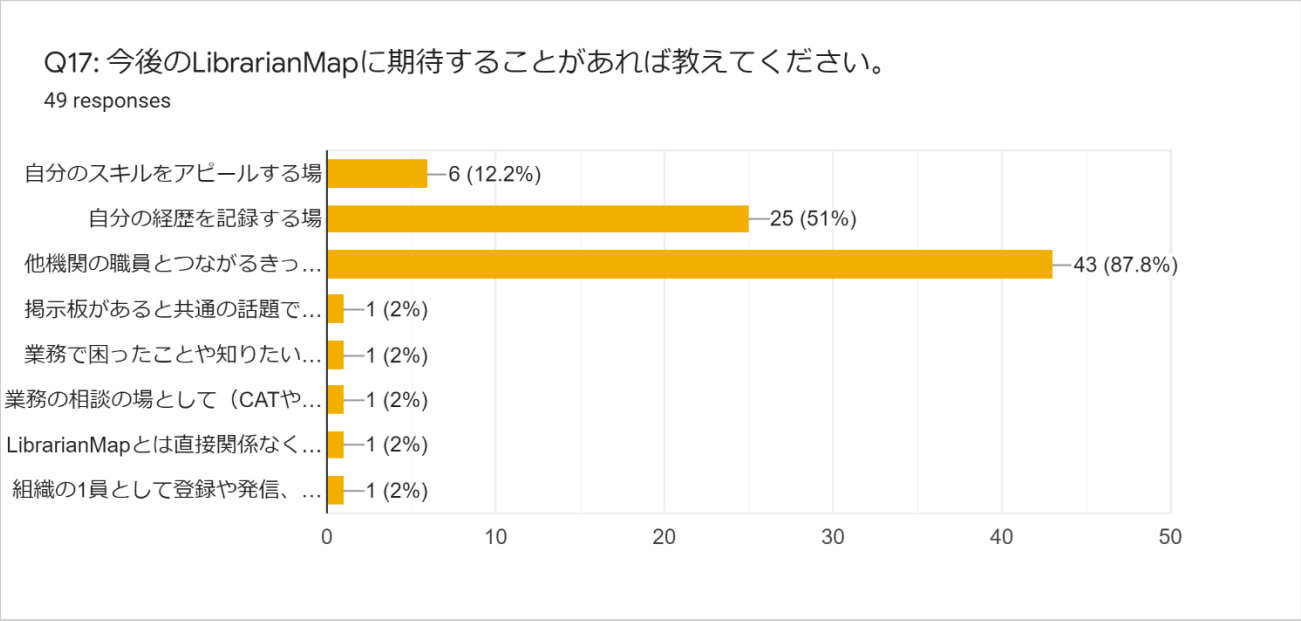
Q16: LibrarianMap に関連したイベントで取り上げてほしいテーマがあれば教えてください。【自由記述】

共通のスキル・関心（や，共通の趣味）の人と繋がりたいので，その支援・きっかけになるイベントを開催してほしい。「広報好きな職員で集まってみた。->記念に動画も作ってみた。」「ボードゲーム好きな職員を募集してみた。->2 次会は Zoom とウェブ版ボードゲームで遊んでみた。」
LM 発の活動事例紹介（報告ページの作成）
「図書館の外側へのアピール」ながきにわたる図書館の課題です。うまく行った事例は「すごい」「さすが」といった感想で終わってしまうことが多いので（組織・職場環境や業務の機会に依存する？）、うまく行かなかった事例の共有をお願いしたいです。自分の例で言いますと、評価関係の業務に関わり、WoS や Scopus のデータ収集・管理を担当しましたが、評価をされたのは、データ収集・管理より、データの利用条件等のコンプライアンスに関わることでした。どちらも重要ですが、利用条件は規約を読めば判断がつくので、より経験と知識がより必要なのはデータ収集・管理です。なぜデータ収集・管理に経験と知識が必要なのかを理解（イメージ）してもらうことに苦労しました。こういう知識と経験が必要、という説明より、知識と経験がないとこういうミスが起きる、そのミスは評価のアウトプットの質にこのように影響する、という説明の方が、評価者に当事意識を持ってと聞いてもらえたのではないかと反省しています。
今後、図書館員のポジションが減っていく中で、図書館員の職務やあり方について自由に議論する場があるといいと思う。特に若手職員にとっては死活問題であり、危機感を共有したい。
認知度があがり、入力率が高まるといいと思いますので、フレッシュパーソンセミナーでの開催はかなり効果的なのではないかと思いました。
LM の今後の展望について、参加者と語り合えるようなイベント(LM は皆で作っていくという意識が作れるようなイベント)があったらいいと思う。

Q17: 今後の LibrarianMap に期待することがあれば教えてください。【必須】

《選択肢》

- 自分のスキルをアピールする場
- 自分の経歴を記録する場
- 他機関の職員とつながるきっかけとなる場
- その他



Q18: 現在、LibrarianMap は国立大学図書館協会東京地区協会の助成事業により、単年度事業として運営されています。この運営体制についてのご意見があればお寄せください。【自由記述】

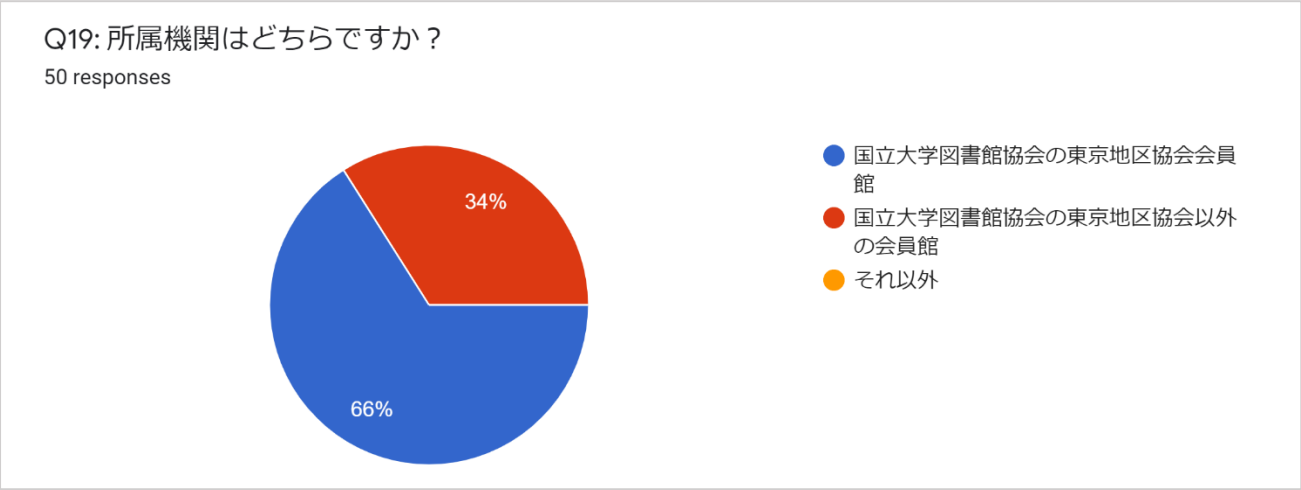
LibrarianMap は少しずつでも経歴などが蓄積されていく効果が大きい取り組みと思うので、長期的に運営することが負担という側面も理解はできるものの、規模を縮小しながらでも長期的に継続していくことが重要かと思う。例えば独自ウェブサイトの構築などシステム面が負担であるならば、より簡易な方式に改めることや、ResearchMap など既成のサービスとのすみ分けの検討すること、非公開から公開前提に運営方針を変更することなど、負担を軽減し維持する方法を考慮しても良いかと思う。
まだ，活用の方向性が定まっていないというか，十分に活用されていないので，図書館職員なら登録していないのはモグリだろうと思われるくらいのサービスになるまでは，単年でイベントやら企画やらをいろんな人の知恵で出し合っていったほうが良いと思う。軌道に乗ったら，継続性のために，（維持運営のためだけの）長期事業に転換できると良いのではないでしょうか。
特に無し
運営に興味を持った筑波大の参加者の方が、東京地区外であるがために参加できないというお話を聞いて、残念に思いました。他機関の職員とつながるきっかけを目的の一つとしているのであれば、所属地区に縛られず全国各地に運営側の人間がいる方が、運営にとっても参加者にとってもメリットが大きいのではないでしょうか。 より活発な活動のために助成を受けているかと存じますが、助成のために活動が制限されるという事態は本末転倒のような印象を受けました。
面白い取り組みであると思いますので、ぜひ運営を続けていっていただきたいと思っています。現在のやり方が難しければ、東京地区協会以外の方もふくめて、運営してもよい方を募って、最近流行りの（？）図書館コミュニティの醸成をめざしていけるといいのではないでしょうか。
サーバ費用等の最低限の維持費は協会の継続的事業として負担し、運営は Wikipedia のように利用者による自治で行うのがよい。そのためには、そもそも利用者が増えないと苦しいので、登録のインセンティブを高める必要がある。
全国的・継続的に運営ができればいいと思います。
運営のみなさまには頭が下がります。ご苦労も多いと思いますがぜひ発展させていっていただきたいと思います。
長期に続く見通しがある方が、より登録促進もしやすいように思うため、運営メンバーは 1～2 年ごとに入れ替わるとしても、人材育成事業として、長期（5 年単位など）運営しても良いのでは、と思います。
全国の会員館の職員が登録しているので、運営主体も東京地区のみでなく全国であっても良いと思う。
会員館メンバー間の繋がりが以前より減ってきていると感じている中で貴重な取り組みであると思います。当初よりインセンティブをどう打ち出していくのかが課題だったのかなと思われますが、国大図協のコミュニティ内のコミュニケーションツールの一つとして頑張ってほしいです。運営体制をどうしていくかも大きな課題と思われますが、（今回のアンケートもその一環と思われますが）役割等見直す中で、その役割によって決まっていくのではないかとも思いました。建設的な意見ではなく恐縮です。応援しております。
登録人数も増えてきているので今後も継続していってほしい。そのために単年度ではなく、何か年かの事業へ移行して継続運営を見据えてほしい。

単年度事業ではなく継続事業として、また国立大学だけでなく国公私立大学の図書館の協力事業として運営できれば理想的だと思う。
低コストで運営できるので、単年度事業ではなく、長期の運営を前提とした体制に移行できたらいいと思う。
今後も活動を継続すべきであると思います。単年度事業より、中長期的な事業とすることが望ましいと考えます。
現在は運営を東京地区内の方々の尽力に頼っていると思いますが、助成事業にも区切りが来ることが予想されます。今後は他の地区を巻き込みながら、自立した運営ができると良いと思う一方、財源の確保などの課題がもあるだろうと予想します。
東京地区協会の事業であること、単年度事業であること、この二つのことにより活動に制約が生まれていると思う。LibrarianMap 自体が東京地区に限らず全国を対象としたものになったので、もう少し柔軟な運営体制を取れるとよいのでは。
各担当者の負担感はどの程度なのでしょうか。負担感が強く、本務に影響があるのではと気になっています。
何かの成果や明確な将来性を示さないと、助成は打ち切られてしまうでしょう。　もっと国大図協のビジョン 2025 の重点領域とリンクするような具体的な方向性を示せれば事業継続できるのではないでしょうか。運営体制も今はネット環境があれば会議も作業も充分可能ですから、東京地区以外からの非常勤の協力的な運営メンバーも募って、全国事業だという方向性を示しても良いかもしれません。
単年度事業だと先行きが不透明なので、数ヵ年事業などもっと長い目をもって活動できるような体制にできるといいと思う。

Q19: 所属機関はどちらですか？

《選択肢》

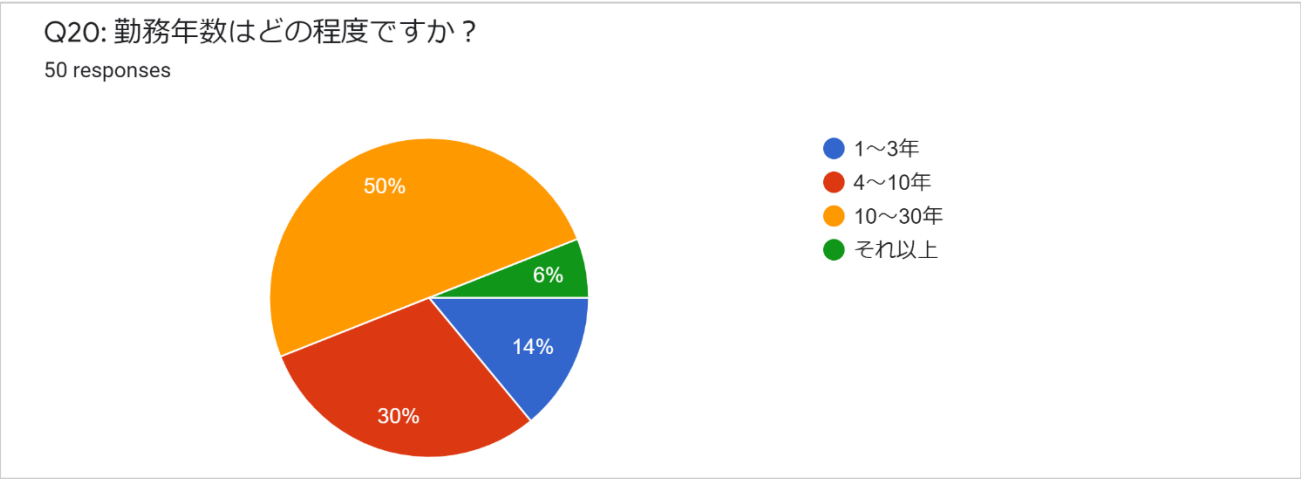
- 国立大学図書館協会の東京地区協会会員館
- 国立大学図書館協会の東京地区協会以外の会員館
- それ以外



Q20: 勤務年数はどの程度ですか？

《選択肢》

- 1～3 年
- 4～10 年
- 10～30 年
- それ以上



2021年度LibrarianMap技術的検討報告書

2022.3

LibrarianMap（以下、LM）を運営していくにあたり、より情報が集まり活用してもらいやすいものにするため、また運営メンバーの負担を軽減するため、前年度以前からの検討事項も含めて技術的改善・検討を実施した。

実施作業

1.更新に関するリマインドの送付

目的：
　LMに登録後長期間更新が無い登録者に対して更新を提案するメールを送付することにより、記載している情報の更新や、LMを活用してもらうきっかけとする。特に所属や連絡先といった情報が古い情報のままになっている場合、活用の妨げとなり、LM全体の情報に対する信頼の低下にもつながりかねないため、積極的に更新を促す必要がある。

作業概要：
　LMでは、利用者はそれぞれ自己紹介や経歴など自由に記載できるページ（以下、マイページ）を作成できるようにしており、マイページの最終更新日を確認することで更新からどの程度期間が経っているか確認することができる。
　LMがシステムとして使用しているMediaWikiでは、利用者やページなどの情報をデータベースに格納して保持している。このデータベースからマイページとその最終更新日を抽出し、長期間更新が無い利用者に対してメールを送付した。

方法：
　LMが使用しているXserverでは、管理画面からSQL文を実行することでデータベースから各種データを抽出することができる。
　データは様々なテーブルに分かれて格納されているが、今回必要なデータであるマイページおよび最終更新日が両方格納されているテーブルは無い。よって、複数のテーブルの共通項目をキーとしてデータを結合することで必要なデータを抽出する。
　前年度にSQL文の作成とテストが完了していたが、今年度のMediaWikiアップグレードによりテーブル構造が変更された。変更に対しSQL文を修正し、必要なデータを抽出できるようにした。

結果：
　今年度改めてテストを行い、必要なデータの抽出に成功したため、本番環境に対して

抽出を実施し、対象となる29人にメールを送付した。送付対象は、「LMが正式運用を開始した2020年4月1日以降にマイページが更新されていない利用者」とした。
　メール送付利用者のうち、3月28日時点で3人から返信があり、また9人のマイページが更新された。

2. 編集画面の改良

目的：
　LMのページはmarkdownに類する方式であるところのMediaWiki記法で記述されており、箇条書きや文字色の変更などは、文章内・文字列の前後に記号で記述されることで反映される。記法についてはMediaWiki公式ヘルプページに記載があるものの、記法に慣れていない利用者にとっては編集のハードルとなっている。
　Microsoft Wordのような視覚的に操作可能なインターフェイスで編集できるようにすることで、より気軽に編集してもらえるようにする。

作業概要：

　MediaWikiでは、公開されている拡張機能を使用することで様々な機能を追加することができる。既存のVisualEditorという拡張機能によって視覚的な編集が可能な編集画面に切り替えることができるため、これを評価環境で有効化・動作確認し、問題がなければ本番環境においても実装する。

方法：
　拡張機能はMediaWiki本体のアップグレードとは別途、個別にアップグレードする必要がある。
　サーバー内テストサイトのMediaWikiバージョンに対応したVisualEditorをダウンロード・インストールした後、通常おこなうようなログイン、ログイン後の編集などの作業を正常に実施できるかどうか確認する。
　上記内容の手順書を作成し、それに基づいて作業を実施する。

結果：
　インストールは問題なかったが編集時に「Error contacting the Parsoid/RESTBase server (HTTP401)」と表示されるエラーが発生した。技術指導の助言の下、エラー回避のための設定変更を試みたが改善しなかった。
　VisualEditorのMediaWiki公式ページ内のトラブルシューティング等から、LMの閲覧を限定するためベーシック認証によりID・パスワードを求めることが影響していると考えられる。類似のエラーについても公式フォーラムに提起されており、現在進行形で対応中の問題と考えられ、現時点でエラーを回避することはできないと思われる。
　2021年度LibrarianMap登録者向けアンケート回答においても、より直観的な編集方法の導入を求める意見があったため、エラーが改善され次第速やかに導入を再検討したい。

参考：
Help:書式整形 - MediaWiki
https://www.mediawiki.org/wiki/Help:Formatting/ja

Extension:VisualEditor - MediaWiki
https://www.mediawiki.org/wiki/Extension:VisualEditor

検討事項

1. 人物情報の自動挿入

目的：
　利用者のマイページの作成にあたって、利用者の所属・著作や研修活動などの情報を取得・挿入することで情報の充実を図る。また、記載情報が少ないマイページに対して情報の不足を補うことも狙いとする。

概要：
　前年度の検討で試験モデルを作成済みであり、この試験モデルは情報源のページから人名と推察される箇所を特定し、それをMediaWikiのbot機能を用いて挿入している。
　試験モデルではPythonや自然言語処理ライブラリの導入など技術知識が必要な方法を取っていること、また情報源として信頼性があるページを探索することも負担となっていた。
　今年度は、より簡易な方法で類似の機能を実装できるかを検討する。

検討方針：
　抽出のための情報源は、メタデータが整備されておりAPIも提供されていることからCiNiiを利用することとした。
　関連する問題点として、2020年度の検討で言及された、利用者氏名を検索キーとする場合の同定に関する部分も含めて検討した。

検討結果：
　実装方針として、Pythonによる処理はマイページへの挿入動作に限定し、CiNiiAPI側で可能な限り情報の抽出をおこなうものとした。
　マイページ記載の氏名を検索キーとする場合、CiNiiでは同名の個人も検索結果として出力されるため、同定のためには分野などの追加情報が必要となる。しかし、同名かつ同分野の人物がいた場合には、更なる追加情報を用いて絞り込みしなければならないため、機械的な処理では個人を同定することは困難と判断した。

利用者が著者IDをマイページに記載していた場合は、それを用いて同定することが可能であるため、そういった一意の著者IDなどを記載する項目をあらかじめ設けることで人物同定を確実なものに出来ると見込まれる。

来年度以降の課題

今年度検討分について、更新に関するリマインドの送付については、手順書の作成をおこない、定期的な作業への移行を目指す。

編集画面の改良、人物情報の自動挿入については、来年度の早期から検討をおこない、今後の方針、および具体的なスケジュールなどを設定することが望ましい。作業内容によっては技術知識が必要となるため、そういった知識の習得も含めて検討したい。

また、技術知識は運営メンバーにより習熟度が異なるため、その差異のフォローやLMに取り入れる機能やメンテナンス作業に必要な基礎知識の習得など、技術的な部分の属人化を避ける仕組みを構築したい。

LibrarianMap
国立大学図書館協会東京地区
Prototype

LibrarianMap RoadMap 2023

Plan A: operated by JANUL

2020年度　2021　2022　2023　2024

1st Season　2nd Season

GOAL
国立大学図書館協会の人的リソースの最大活用

Target

LibrarianMapの拡大と定着および運営体制の確立

登録者範囲の拡大・他地区の登録者増加
既存ページの情報のさらなる充実
関心ある職員へのLibrarianMapの定着
必要最小限のコストで継続できる運営体制の整備

LibrarianMapの安定的継続および再評価

運営メンバーの引き継ぎ
さらなる情報量の充実
情報の質の担保
LibrarianMapの再評価

Numerical Target

登録者数：88名→280名

東京地区　70名→80名
東京地区外　12名→200名

国大図協職員*の
約 15 %

登録者数：280名→350名

東京地区　80名→90名
東京地区外　200名→260名

国大図協職員*の
約 20 %

Team

国立大学図書館協会全体で5～6名のWGを結成

国立大学図書館協会全体で5～6名のWGを結成

Action

登録者要件の緩和
国大図協全体へのアナウンス

中間評価
次期WG募集・引継ぎ

2期開始のアナウンス

再評価

サーバ契約更新

*国立大学の専従職員数（含兼務）「日本の図書館 2018」日本図書館協会編による

LibrarianMap
国立大学図書館協会東京地区
Prototype

LibrarianMap RoadMap 2023

Plan B: operated by JANUL Tokyo

2020年度　2021　2022　2023　2024

1st Season → To be Continued…? → GOAL

国立大学図書館協会の人的リソースの最大活用

Target

LibrarianMapの拡大と定着および運営体制の確立

登録者範囲の拡大・他地区の登録者増加
既存ページの情報のさらなる充実
関心ある職員へのLibrarianMapの定着
必要最小限のコストで継続できる運営体制の整備

Numerical Target

登録者数：88名→280名

東京地区　70名→80名
東京地区外　12名→200名

国大図協職員*の
約 15 %

Team

国立大学図書館協会東京地区で5〜6名のWGを結成

Action

登録者要件の緩和
国大図協全体へのアナウンス

再評価、
運営主体の移行等について再検討

▲ サーバ契約更新

*国立大学の専従職員数（含兼務）「日本の図書館 2018」日本図書館協会編による